

福山大学 生命工学部 平成30(2018)年度 自己点検・評価書

基準1. 使命・目的等

領域：使命・目的、教育目的

2018年度

生命工学部

中長期計画	<p>生命工学部の3学科は、常に教育内容の見直しを行い、結果に対応したカリキュラムを策定してきた。今後も同様に継続する。3学科の使命・目的に関する具体的な中長期計画の概要は以下の通りである。(1)生物工学科は、生命がもつ仕組みを利用して現代社会が抱える環境保全・エネルギー・食糧・医療などの諸問題を環境との調和の下で解決し、人々の生活を豊かにするという視点で教育・研究を行う。このような教育と研究を通して人格的成長を促して、学生のチャレンジ精神と生命に対する畏敬心を育み、社会の要請に応えうる確かな能力を備え、社会に貢献しうる人材育成に努める。また、研究成果を社会に還元し、より良い社会の実現に努力する。(2)生命栄養科学科では、これまで培ってきた食や健康、ライフサイエンスの分野での教育・研究の成果を活かし、これらの最新知識を理解し、科学的エビデンスに基づいた栄養指導や健康なライフスタイルが提案できる新しい管理栄養士の養成を目標として、毎年の卒業判定システムを見直す。(3)海洋生物科学科では、社会並びに受験生のニーズを考慮しながら、基本的に4年毎に適切性の検証を行い、直近の見直し機会としては、2013年から適用している現行カリキュラムの学年進行が終了する2017年度から実施予定の新カリキュラムの策定作業と平行して現行の理念・目的の検証を行い、必要が認められれば見直しを行う。</p>
-------	--

2018年度

生命工学部

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等のそれぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	<p>生命工学部規則の中で、生命工学部の目的を「生命の仕組みを解明し、生物資源、環境、栄養・健康など、人類の抱える諸問題を解決する理論、技術、手法に関する教育・研究を行う。これらを通して、社会の要請に応えうる確かな能力を備えた人材の養成を目的とする。」と明確に定めている(学生便覧2017)。</p>
年度目標	学部理念・目的は継続する。
年度報告	学部の使命・目標と合致したカリキュラム設定、学生指導等を行った。
達成度	S
改善課題	学部の使命・目的および教育目的は明確に設定され、その意味・内容は具体的かつ明確であるので、改善課題は特にない。
根拠資料	<p>①平成30年度学生便覧 ②平成30年度卒業生就職先一覧</p>
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	<p>本学部では、平成26年度より「瀬戸内を醸す教育プログラム」を立ち上げた。まず生物工学科が発酵科学プロジェクトに着手し、年次を追って海洋生物科学科、次いで生命栄養科学科で「瀬戸内」を教育内容に組み込んだプログラムを立ち上げる予定である。本教育プログラムは十分個性的であるといえる。生物工学科では「瀬戸内の里山からはじまる、食と環境のバイオサイエンス」というメインテーマを打ち立てて、教育・研究の改革と学科のポリシーの明確化を図っている。また、他大学には殆どみられない水族館施設や、フィールドでの実験・実習に適する穏やかな瀬戸内海に面した因島キャンパスなど、本学の特色を最大限に活用したものとなっており、現状でも他大学の学部・学科との差別化ができていると判断している。各学科のカリキュラム変更時に、順次対応する予定である。</p>

年度目標	平成26年度に立ち上げた生物工学科の発酵科学プロジェクトのうち「ワイン科学プロジェクト」を継続する。また「瀬戸内を醸す教育プログラム」を発展させる。さらに、ブランディング事業が採択されたので、「瀬戸内を醸す教育プログラム」だけでなく、瀬戸内の里海・里山学にまで発展させる。
年度報告	学生便覧や各種イベント等の様々な機会を通じて学部の理念・目標を積極的に公表した。
達成度	S
改善課題	さらに学部内の3学科の個性・特性を際立たせることを目指す。
根拠資料	①平成30年度学部教授会議議事録 ②平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	社会の要請や背景の変化について常に検討している。海洋生物科学科は学科の特徴をうまく世間にアピールできており、入学希望者は全国から500名前後を集めることができるようになった。そのため、2016年度から入学定員を80名から100名へと20名増員した。このように、社会の要請や背景の変化に柔軟に対応している。
年度目標	今後も社会の要請や背景の変化に敏感に対応していく。
年度報告	学部に対する近隣高校10校の要請などを高校訪問を2度ずつ行うことにより聞き取り、検討を行った。
達成度	A
改善課題	生物工学科と生命栄養科学科の入学人数からみて、社会の要請に充分応えられていない可能性があるため、今後も常に社会の要請や背景の変化について検討していく必要がある。
根拠資料	①入試広報室により作成された入学試験受験者数一覧資料 ②高校訪問報告書
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	学部の使命・目的および教育目的は生命工学部は発足してから一貫しており、毎年その内容は学生便覧などで周知されているが、異論が出ることもないことから、教職員の理解と支持は得られていると考えている。
年度目標	学生便覧、大学案内での周知はもとより、各種イベント等を通じて、学部の理念・目的の発信を継続して行う。
年度報告	教育目的に対応したカリキュラム変更を行い、学部教授会で承認された。
達成度	A
改善課題	学部のFDやSDを積極的に実施することにより、さらに教職員の学部の使命・目的および教育目的の理解と支持が得られるように改善する。
根拠資料	①平成30年度学部教授会議議事録

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し周知していますか。
現状説明	教員、学生ならびに受験生に対し、学科の理念・目的を学生便覧、大学案内などで周知するとともに、社会に対しても生命工学部のホームページで公開している。加えて、公開授業、公開講座、入試説明会等の機会を利用して、学部3学科のそれぞれの教育内容、研究内容、就職先、学科行事や学科活動などを積極的に社会に説明している。
年度目標	学生便覧、大学案内での周知はもとより、各種イベント、高校訪問等を通じて、学部の理念・目的の発信を継続して行う。
年度報告	学生便覧、大学案内での周知はもとより、各種イベント、高校訪問等を通じて、学部の理念・目的の発信を継続して行うことができた。
達成度	A
改善課題	学部公開の実験や授業の見直しを行う。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③福山大学ホームページ ④高校訪問報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画へ反映していますか。
現状説明	使命・目的および教育目的は、学部の様々な中長期的計画の根幹となるべきものと考えているので、さまざまな中長期的計画を考える際に、常に念頭に置いているため、十分に反映されていると思われる。
年度目標	今後も、様々な中長期計画を立てる際、学部の使命・目的および教育目的をしっかりと念頭においていきたい。
年度報告	学部の中長期計画を考える際、常に学部の使命・目的および教育目的を念頭に議論した。
達成度	A
改善課題	今後の学部のあり方に対する中長期的計画を考える際に、学部の使命・目的および教育目的がより反映されるように心掛ける。
根拠資料	①学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーへ反映していますか。
現状説明	2016年度に三つのポリシーを全学的に見直した際、各学部・学科は教育目的と同時に見直し作業を行ったので、使命・目的および教育目的は十二分に三つのポリシーへ反映されていると確信している。
年度目標	今後も引き続き、使命・目的および教育目的の三つのポリシーへの反映を検証していく。
年度報告	学部の使命・目的および教育目的を反映させた三つのポリシーに反映させている。
達成度	S
改善課題	特になし。

根拠資料	①平成30年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	学部・学科の使命・目的および教育目的に沿った教育研究組織の構成を絶えず行ってきた。特に、管理栄養士養成施設である生命栄養科学科では、文部科学省だけでなく厚生労働省の基準をクリアしないといけないため、4つの主要研究分野の資格を持った教員及び医師免許を持った常勤教員を必ず配置するなど、教育研究組織の構成に努めている。その他の2学科においても、学部・学科の使命・目的および教育目的に適した教育研究組織の構成に努めている。
年度目標	今後も引き続き、3学科とも学部・学科の使命・目的および教育目的に適した教育研究組織の構成に努めていく。
年度報告	学部・学科の使命・目的および教育目的に適した教育研究組織の構成をほぼ維持している。
達成度	A
改善課題	海洋生物科学科の食品系の教育研究組織の強化が課題である。
根拠資料	①学部教授会議事録 ②平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部

基準2. 学生

領域：学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2018年度

生命工学部

中長期計画	<p>学生の受入れは、学部・学科の使命・目的および教育目的に適したアドミッション・ポリシーに沿って行う。学生支援として、教育研究組織の適正な構成に努め、修学支援については、クラス担任、卒論指導教員、教務委員を中心にこれまで通り細やかに行う。生活支援については、クラス担任、卒論指導教員に加えて、保健管理センターや心理カウンセラーと連携しながら行う。アメニティー空間の増設等の施設の改修も計画的に行う。進路支援については、大学全体ならびに学科独自のキャリア教育や就職委員による支援、卒論指導教員による指導等、きめ細かな支援を行う。【3学科の学生支援に関する具体的な中長期計画の概要は以下の通りである。】(1)生物工学科は「福大ワインプロジェクト」を通して、1年生から4年生までの縦割りのアクティブラーニングを実施し、上級生には教える喜びと責任感を、下級生には上級生のサポートによる安心感を身を持って体感できるようにする。また、植物の栽培技術や酒類の醸造技術を身に付けることで、社会に必要とされる人材を輩出するようにする。(2)生命栄養科学科は、入学時に3～4人に1人の学生が学費減免措置を受けており、2年次生以降も学費減免措置を受けられる成績を維持できるように指導していく。平日のアルバイトはできる限り控え、週末や夏季休業期間などに限り、アルバイトを認めるようにしているが、今後も学生にはそのように指導していく。(3)海洋生物科学科は、修学支援については、クラス担任・卒論指導教員によるこまめな面談を通じて行い、生活支援についてはクラス担任・卒論指導教員が担当し、必要に応じて保健管理センター・心理カウンセラーと連携をとりながら行い、進路支援については全学的なプログラムに加えて、学科独自のキャリア教育の実施、卒論指導教員による面談、助言、履歴書の書き方指導、面接の練習などを通じた就職活動の支援や、就職活動に役立つ資格の取得の支援等を積極的に行う。</p>
-------	--

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	教育目的を踏まえて、アドミッション・ポリシーを策定し、学内には学生便覧などを通して、学外に対しては大学要覧、大学ホームページ、大学ポर्टレート等によって周知を図っている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	本点検項目については、全学的に取り組んでいる。学部としては現状を維持することができた。
達成度	S
改善課題	改善課題は見当たらない。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	2017年度は外部評価を受けた際に、アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることの検証を行った結果、生物工学科および海洋生物科学科は、ほぼアドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れができていると評価されたが、生命栄養科学科は管理栄養士養成を目指すことをアドミッション・ポリシーに謳っているにもかかわらず、入学生、在学生の全員にそのことが十分伝わっていないところがあり、改善の余地がある。
年度目標	3学科ともにアドミッション・ポリシーに沿った学生受入れを徹底するように改善を行う。
年度報告	学部の目標や3ポリシーへの学生の理解を検証した。
達成度	A
改善課題	生命栄養科学科では、入試面接では管理栄養資格への強い意欲を示すものの、入学後は意欲を失う学生が見られるため、改善する必要がある。
根拠資料	①平成30年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	各学科の入学受入れ状況を昨年度及び今年度については、入試広報室の詳細なデータを参考に検証している。その増減の原因については、いろんな角度からその要因を分析している。
年度目標	入学生受入れ状況の増減の原因を分析することにより、海洋生物科学科の入学手続き者数に対する入学者数の歩留まり割合を考慮した適切な入学者数の確保、および生物工学科と生命栄養科学科の定員数充足を目指す。
年度報告	学部全体ではほぼ入学定員を満たしたが、海洋生物科学科の入学生数が定員を超え、生物工学科と生命栄養科学科が下回った。その増減の原因を高校訪問の際の聞き取りによって分析した。
達成度	A

改善課題	引き続き、定員割れの2学科に対して原因を分析する。
根拠資料	①入試広報室により作成された入学試験受験者数一覧資料 ②高校訪問報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	海洋生物科学科は入学定員を80名から100名の増員しても、学生受入数を満たしている。しかしながら、生物工学科、生命栄養科学科では維持できていない。特に生命栄養科学科では、2018年度は定員50名に対して半分以下の入学者数となっている。これらに対して、2学科では、学科の情報発信、教員や在学生の高校訪問、社会貢献などを行うとともに、生命栄養科学科では、国家試験合格率を高めることに努める。
年度目標	海洋生物科学科の入学手続き者数に対する入学者数の歩留まり割合を考慮した適切な入学者数の確保のために、合格者数の適切な判断を行う。いろんな手法を用いて、生物工学科と生命栄養科学科の入学定員数充足を目指す。
年度報告	海洋生物科学科の入学手続き者数が定員の1.3倍の130名を超えないようにすることができた。生物工学科と生命栄養科学科のそれぞれ50名の入学定員数に対して、定員数を充足することができなかった。
達成度	A
改善課題	学部全体の入学定員数をほぼ充足させることはできたが、今年度も海洋生物科学科の入学者数に負うところが大きく、生物工学科および生命栄養科学科の定員充足が、依然として改善課題として残っている。
根拠資料	①平成31年度福山大学入学手続状況表(全学教授会配布資料)
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	学修体制の整備のため、学部教授会および学科長等連絡会議に学部事務室からそれぞれ2名および1名が同席し、議題内容の情報の共有を行っている。学部教授会の議事録の案を学部事務室で作成し、学部長が議事録の内容を確認し、議事録を学内外に公表し周知している。
年度目標	
年度報告	学部教授会および学科長等連絡会議に学部事務室からそれぞれ2名および1名が同席し、議題内容の情報の共有を行った。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	学修支援の充実のために、大学院生にTAとして学生実験の教員の補助として参加させている。そのアルバイトの費用は、生命工学部の予算として組み込んでいる。
年度目標	今まで通り、学生実験における大学院生によるTA制度を継続する。
年度報告	大学院生にTAとして学生実験の教員の補助として参加させた。
達成度	A
改善課題	予算の関係で、大学院生に十分なTAを担当してもらうことができなかったため、予算の確保が必要である。
根拠資料	①学部予算書
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	キャリア形成支援に関しては、各学科とも全学的キャリア支援システムに加え、学科独自の教育科目やガイダンス等、教育課程、組織体制とも整備されている。ほぼ有効に運用されている。学科によっては、キャリア形成支援に関する教育課程として、必修科目のキャリアデザインⅠの半分の時間を、科目主担当の専任教員の総論の授業を、残り半分は学科教員による各論の授業を行い、学生のキャリア形成に対する意識を高めている。
年度目標	現状を維持・継続する。
年度報告	学部生のキャリア教育として、1年次のキャリアデザインⅠを必修としている他、生命栄養科学科では3年次の臨地実習・校外実習で管理栄養士が働く職場で実務を経験している。
達成度	A
改善課題	管理栄養士資格による職業的自立を志向する意志が弱い学生がおり、学修意欲の低下につながっている。
根拠資料	①2018年度キャリアデザインⅠシラバス ②2019年度生命栄養科学科カリキュラム
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間に亘る資料を収集し、検証していますか。
現状説明	学部長に年度末に卒業生の進路に関する資料が届くのに加えて、各学科で就職活動状況の記録を残し、検証している。
年度目標	現状を維持・継続する。
年度報告	企業の採用意欲が高く、就職は順調に進んでいる。人数は次の通り。生物工学科:卒業生数44人、内定者数41人、大学院進学2人、未内定者0人、その他1人、生命栄養科学科:卒業生数39人、内定者数38人、大学院進学1人、未内定者0人、その他0人、海洋生物科学科:卒業生数95人、内定者数89人、大学院進学2人、未内定者0人、その他4人
達成度	A

改善課題	大学院に進学する学生や、生命栄養科学科では病院勤務を希望する学生が少ない。
根拠資料	①平成30年度卒業生就職先一覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	資格取得に関しては、管理栄養士(生命栄養科学科)、学芸員(海洋生物科学科)の養成課程を整備している。また、キャリアデザインⅠの他、臨地実習(生命栄養科学科)、インターンシップなどを活用し、1～3年次生に対するキャリア形成支援を行っている。
年度目標	現状を維持・継続する。
年度報告	現状説明の通りであるが、管理栄養士資格取得率が低下したり、企業インターンシップへの参加者が減少した。
達成度	A
改善課題	管理栄養士資格取得率、および企業インターンシップへの参加者数の改善。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	進路選択に関わる指導・ガイダンスは、全学的な取り組みとして就職委員会を中心に実施している。就職委員と担任が中心となって、就職課と連携しながら指導・ガイダンスを行った。就職状況は毎月のそれぞれの学科が学科会議に諮り、情報を共有している。就職内定率から判断し、学部学科や就職課のサポートや進路探究科目等で適切に実施されていると判断している。
年度目標	現状を維持・継続する。
年度報告	2018年度の学部全体では、卒業者数178人、内定者数168人、大学院進学5人、未内定者0人、その他5人であった。企業の採用意欲が高く、就職は順調に進んでいる。
達成度	A
改善課題	大学院進学者や生命栄養科学科では病院勤務を増やしたい。
根拠資料	①平成30年度卒業生就職先一覧
次年度の課題と改善の方策	

2018年度		生命工学部
中点検項目	2-4. 学生サービス	
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。	
現状説明	入学時に3～4人に1人の学生が学費減免措置を受けており、2年次生以降も学費減免措置を受けられる成績を維持できるように指導している。平日のアルバイトはできる限り控え、週末や夏季休業期間などに限り、アルバイトを認めるようにしているが、今後も学生にはそのように指導していく。	
年度目標	現状を維持・継続する。	

年度報告	大学の奨学生制度ならびに学生支援機構の奨学制度を多くの学生が利用している。
達成度	A
改善課題	勉学に支障のない程度のアルバイトで済むような経済的支援が必要。
根拠資料	①奨学生名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊦ 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン」に従って行っている。生命工学部は2名のハラスメント相談員を置き、ハラスメント相談窓口としている。ガイドラインは掲示するとともに、オリエンテーションで書面で学生に配布している。さらに、学部全体では相談・指導体制はないが、学生が安全に安心して学生生活を送るために、学科ごとに学生委員、クラス担任がきめ細かに相談・指導を行っている。複数の教員で学生一人一人の相談に乗り、必要に応じて学生の保証人も交えて相談に乗るなど、指導体制は充実している。
年度目標	現状を維持・継続する。
年度報告	2018年度中にハラスメントに関する相談はなかった。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①ハラスメント対応委員会の平成30年度の活動報告(評議会配布資料)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊦ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。
現状説明	生命工学部では、社会連携センターやプロジェクトM、ビジネス交流会・福山未来、広島バイオテクノロジー推進協議会等と密に連携しながら、福山大学社会連携センター規則に基づいて社会連携に積極的に関わるため、従来から行ってきた社会連携・貢献事業を実施している。恒例行事となっている生命工学部公開授業、福山市じばさんフェア、健康福山21フェスティバル、市民フォーラム、栄養士・管理栄養士向けの社会人技術者向けの卒後教育講座、府中産業メッセ、高校生アイデアどんぶり選手権などを継続して実施している。さらに新しく福大ワインプロジェクト、ふくやまバラの酵母プロジェクトでも社会連携・貢献を行っている。要請があれば福山大学公開講座や出前授業への講師派遣を行っている。また近隣高等学校との連携協力については、先方からの要請があれば今後も庄原実業デュアルシステム授業や清心女子高SSHの支援を行っていく。また因島キャンパスの水族館見学や出前水族館などの要望も可能な限り受け入れるなどして、本学部の教育研究成果の地域住民に対する広報に努めている。学生のサークル活動や留学等の国際交流などの課外活動も推奨している。
年度目標	上記の恒例事業を核に社会連携・貢献を行っていくが、参加者の減少、対象者の変動、内容のマンネリ化、担当教員の負担増などの問題が表面化しつつあるので、単に活動範囲を広げていくのではなく、内容を良く吟味した上で、場合によっては整理統合して、より効果的な事業を企画していく。そのために各学科2名の委員からなる生命工学部内社会連携委員会を積極的に稼働し、その中で既存の行事を評価・再検討していくとともに、学部としての事業と学科独自の事業を調整しバランス良く実施していきたい。
年度報告	7月1日に地域からの要請に応じて本郷川の清掃活動に学科の教員や学生が参加した。また、サークル活動等に積極的に参加する学生もいる。今年度はトビタテ！留学JAPAN「福山地域人材コース」に学部から2名参加した。取り組みを整理統合することはできていない。
達成度	A
改善課題	特になし。

根拠資料	①備後福山ワイン推進協議会活動報告書 ②本郷川清掃活動周知メール ③学部公開授業受講生募集ポスター
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	文部科学省ならびに厚生労働省の基準を満たす設備を維持している。教育・研究を効率的に進めるために、施設・設備の移動・改修を進めた。今年度に受審した生命工学部の外部評価においても、本学科を含む生命工学部の教育研究等環境について老朽化した施設・設備・機器類の整備・保全が必要であると指摘されている。
年度目標	平成26年度より本学部で立ち上げた、瀬戸内を前面に出した教育プログラムに対応して、生物工学科で立ち上げた醗酵科学プロジェクトにおいては、ワイン等の試験醸造や学内および借り上げた圃場で行うブドウの栽培等に関して、中長期計画を練る必要がある。醗酵科学プロジェクトに関しては、設備・施設の充実についても年度計画を立てる必要がある。また生命栄養科学科では、国家試験合格率向上に向けて国試対策の充実ならびに18号館の利用に関して計画的に検討する必要がある。さらに海洋生物科学科と内海資源研究所の水族館施設との連携・有効活用についてきちんと計画を立てる必要がある。またグリーンサイエンス研究センターと連携した教育研究環境の整備も練る必要がある。16、17、18館の建物の改築、保守管理についても計画的に行う必要がある。これらの計画に対して、PDCAサイクルを回すために、計画、実施状況、成果の検証をきちんと行う体制づくりも必要である。
年度報告	今年度に16号館の外壁面の塗替えや18号館男子トイレの改修が行われた。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度生命工学部予算申請書 ②平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	学部教員によるICT教室の利用はまだ限定的である。16号館、17号館、18号館、因島キャンパスの実習・実験施設は十分に使用している。図書館運営委員会の報告から判断して、学部学生の図書館の利用状況はそれなりに活用していると思われる。
年度目標	今後、教員・学生がさらにICT教室や図書館等を積極的に活用するようにしたい。
年度報告	専門科目でICT教室等を広く利用した。図書館は学生が授業の課題や学生実験のレポート作成、卒業研究に必要な文献検索などを行う上で利用した。
達成度	A
改善課題	学科によっては、専用アプリケーションを必要とする授業科目を全員が同時に参加できる環境を整備する必要がある。
根拠資料	①種々の授業科目について、セレッソを活用したログ。
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	学部の3学科は、それぞれに学生の学習環境、教員の教育研究環境、またアメニティ環境の整備を年次計画で行ってきており、18号館1階はかなり整備が進んだ。ただし、3学科の学生のためのアメニティ環境の整備はまだ不十分である。
年度目標	16号館、17号館、18号館、28号館のアメニティ環境の整備を進める。
年度報告	まずは16号館および因島キャンパス1～3号館の老朽化した施設・設備の修繕を優先するため、施設・整備のバリアフリー化は行っていない。
達成度	A
改善課題	学部にアメニティ施設が不足している。
根拠資料	①平成30年度施設設備予算要求書 ②平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検 など
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	海洋生物科学科の授業は海洋生物科学科の16号館に隣接した24号館の大講義室などを利用できているので、学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理はできているように思える。
年度目標	現状を維持・継続する。
年度報告	本学キャンパスおよび因島キャンパスにおける学修に必要な施設・設備を維持・管理した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度施設設備予算要求書 ②平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	大学の「安全衛生委員会」「福山大学における学生の安全衛生委員会」と連携し、安全衛生マニュアルならびに学生の安全衛生規程に従って、安全・防災に取り組んでいる。10月27日に全学的に実施された防災訓練に本学部教員と学生が多数参加した。
年度目標	避難経路等の非常事態での対応の周知を図る。
年度報告	大学の「安全衛生委員会」「福山大学における学生の安全衛生委員会」と連携し、安全衛生マニュアルならびに学生の安全衛生規程に従って、安全・防災に取り組んだ。学部SDとして危機管理マニュアルに従って、安全確保の体制を確認した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学危機管理マニュアル
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	各学科内に劇物・危険物の管理に関する学科内委員を置き、安全管理および管理システムの整備を行っている。また、全学的には「福山大学における学生の安全衛生委員会」および教員に対する「安全衛生委員会」に学部から委員を出して、全学的な取り組みに対応している。
年度目標	現状を維持・継続する。
年度報告	安全衛生委員会の化学物質管理規定制定とリスクアセスメントのマニュアルに従って、試薬の使用・保管場所を整理できている。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①爆発物の原料となりうる化学物質の管理簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	全学的な福山大学安全衛生委員会に、学部から教員2名を委員として選出しており、本委員会で審議・決定した事項を学部教授会において報告し、必要な対応を行っている。学部を設置している学部安全衛生委員会に各学科より教員1名を委員として選出しており、本委員会で審議し、必要な対応を行っている。危機対応マニュアル、緊急連絡先等の情報を構成員で共有している。施設等は適切に管理され、安全性と衛生が確保されている。研究関連施設は利用者(教職員・学生等)によって管理されている。共用部分は分担を決めて管理し、清掃は業者によって行われている。大学の「安全衛生委員会」「福山大学における学生の安全衛生委員会」と連携し、安全衛生マニュアルならびに学生の安全衛生規程に従って、安全・防災に取り組んでいる。施設・設備が老朽化している。施設・設備の改修あるいは移転について検討を始める。安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施している。また、作業環境測定のための特定化学物質・有機溶剤使用状況調査、作業環境測定の実施等、安全衛生委員会を通じて行われた大学からの指示に従って対応を行った。
年度目標	避難経路等の非常事態での対応の周知を図る。16,17,18号館の施設・設備の再配置を進める過程で、学生のアメニティー空間を確保する。
年度報告	「自然災害対応マニュアル」および「福山大学危機管理基本マニュアル」を学部全教員に配布し、3月7日に災害時避難などに関する学部FDを行った。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①自然災害対応マニュアル ②福山大学危機管理基本マニュアル
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	学部としては整備されていない。各学科とも、担任、教務委員、就職委員、学生委員が中心となって、きめ細かく支援している。現状ではほぼ適切に機能していると判断する。学部として組織の整備が必要となれば、今後検討する。また、大学全体で各種アンケートが実施されており、その結果が公開されている。学科では、講義やイベント参加等の機会を使って学生へのアンケートを複数回行い、そのアンケート結果を学科内で回覧し、学生支援の際の参考にしている。また、学科の個々の状況・意見を担任教員が直接の面談により聴取しており、適切に機能している。
年度目標	大学での学修に適応し、目標に向けて努力を続けるように指導を強化する。具体的には、担任による面談や講義の際の声掛けを引き続き実施する。全学的には、卒業生アンケートの中で教職員による学生支援体制について満足度を測る調査を引続き行う。
年度報告	全学的には、「学生による授業評価アンケート」、「卒業生アンケート」、「共通教育(1年生)アンケート」をそれぞれ実施し、授業アンケート等に対して適切なフィードバックを行い、アンケート結果を授業等の向上に活かしているが、学部としては整備されていない。
達成度	B
改善課題	学修支援に対する学生の意見を汲み上げるための学部独自のアンケート調査の実施を行うこと。
根拠資料	①平成30年度授業評価アンケート報告書
次年度の課題と改善の方策	次年度は、卒業生アンケートの結果を学科ごとに点検し、その結果から改善を必要とする事項を抽出し、改善課題としたい。
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	心身に関する健康相談は、主として心理カウンセラーと保健管理センターが担当しており、連絡を受けてクラス担任・卒論指導教員が学生への対応を行っている。経済的支援としては、学費減免措置を受けている学生に対しては主に担任が2年次生以降も学費減免措置を受けられる成績を維持できるように指導している。問題を抱える学生に関して、各学科の学科会議で情報の共有を行い、学科教員全員の認識を行っている。
年度目標	多様な課題を持つ学生を適切に支援する体制を維持する。さらに、学生支援ポリシーに沿って、クラス担任、授業担当者、教務委員、学生委員らが組織的に、学生に対する支援を行う。
年度報告	学生支援ポリシーに沿って、クラス担任、授業担当者、教務委員、学生委員らが組織的に、学生に対する支援を行った。
達成度	A
改善課題	心身に障害を持つ、あるいは障害を持つことが疑われる学生に対する指導を充実させる。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	学部としては整備されていない。各学科とも、担任、教務委員、就職委員、学生委員が中心となって、学生の意見や要望を聞き入れ、支援している。現状ではこのような体制はほぼ適切に機能していると判断している。学部として組織の整備が必要となれば、今後検討する。また、大学全体で各種アンケートが実施されており、その結果が公開されている。学科では、講義やイベント参加等の機会を使って学生へのアンケートを複数回行い、そのアンケート結果を学科内で回覧し、学生支援の際の参考にしている。また、学科の個々の状況・意見を担任教員が直接の面談により聴取しており、適切に機能している。
年度目標	大学での学修に適応し、目標に向けて努力を続けるように指導を強化する。
年度報告	学生面談等で学生の要望の聴取に努めた。卒業生アンケート等の結果と合わせて対応を検討した。
達成度	A
改善課題	アメニティ施設の不足を訴える声が寄せられているが、十分には対応できていない。
根拠資料	①平成30年度大学教育センター運営委員会資料
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部

基準3. 教育課程

領域：卒業認定、教育課程、学修成果

2018年度

生命工学部

中長期計画	本学部各学科の学位授与(卒業認定)方針、教育課程の編成・実施方針、学修成果の判定方法などは学生便覧に明示されている。これらの定期的な見直しを行うとともに、教育内容の変化に応じて改善する予定である。中目標：2016年度に学部・学科の目的及び3つのポリシーを見直した。これらの内容と卒業認定、教育課程、学修成果の評価などの整合性を検証する。 小目標：現在の学部のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アセスメントポリシーが適切かどうかを、毎年検証する。
-------	---

2018年度

生命工学部

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	学部・学科の教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、教育目的、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーとともに、2016年度に全学的に見直され、学生便覧2017に明記されている。また大学HPにもアップされている。学内的には学生便覧2017を用い、新入生をはじめ在学生に対して特に新年度の学科別オリエンテーションで説明してきた。学外的には、入試説明会、参事や教員・在学生による高校訪問などで学生便覧を示しながら説明するとともに、学外者の大学HPの閲覧を可能にしている。
年度目標	ディプロマ・ポリシーをさらに学内外に周知してもらうような工夫を行う。
年度報告	学生便覧ならびに大学ホームページ等を通じて周知した。入試説明会、大学見学会、高大連携授業、就職懇談会、保証人を対象に開催している教育懇談会など様々な場面において、学部の目的を説明し、ディプロマ・ポリシーの周知に努めている。
達成度	S
改善課題	特になし。

根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	学部の目標ならびに各学科の教育目標は大学の教育理念を反映したものであり、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との整合性が取れていると判断している。そのディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定は、全学的な規程の範囲内で、各学科の教務委員などが中心となって、毎年見直しを行い、学科会議で承認後、学部教授会で認可している。2017年度には学科ごとに卒業研究のルーブリック評価を試行的に行い、2018年度からの卒業研究の点数評価に備えた。各種基準は学生便覧ならびにシラバス等に明示されており、ルーブリック表を用いた修了認定基準以外は学内外に周知している。
年度目標	2016年度にディプロマ・ポリシーを改訂したことから、その適切性を引続き検証する。
年度報告	修了認定基準(ルーブリック表を用いた評価基準)を導入し、卒業研究の点数評価を実施した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等は、学生便覧2017に明記されており、教務課、学科、学部で審議し、全学教授会で承認を受けているので、厳正に適用されている。
年度目標	現状を維持・継続する。
年度報告	
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	学部・学科の教育目的を踏まえたカリキュラム・ポリシーは、教育目的、ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシーとともに、2016年度に全学的に見直され、学生便覧2017に明記されている。また大学HPにもアップされている。学内的には学生便覧2017を用い、新入生をはじめ在学生に対して特に新年度の学科別オリエンテーションで説明している。学外的には、入試説明会、参事や教員・在学生による高校訪問などで学生便覧を示しながら説明するとともに、学外者の大学HPの閲覧を可能にしている。
年度目標	カリキュラム・ポリシーをさらに学内外に周知してもらうような工夫を行う。
年度報告	教育目標と学位授与方針に基づく教育課程の編成・実施方針を維持し、ホームページ等を通じて公開した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーは、ともに教育目的を踏まえて作成されているため、強い一貫性をもっているのは明らかである。
年度目標	生命工学部に対する社会や時代の要請が変化した場合には、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの文言は常に見直すことにやぶさかではないが、現時点では現状を維持したい。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	毎年度、学科単位で教務委員が中心となって、学生の科目に対する習熟度、資格取得科目の配置など、あらゆる角度から見て学科に最良の教育課程を構築するべく、時間割を編成している。2017年度は講義内容により的確な科目名への変更を2科目に対して行ったに留まった。
年度目標	カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を維持する。
年度報告	カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を維持した。
達成度	S

改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	教養教育は、近年特に英語教育に対して改革が行われており、それに合わせて専門英語の内容の見直しなども行うなど、十分に成果を上げている。
年度目標	英語教育以外の教養教育に対しても、学部教員は十分な関心を持って、今以上の改善を求める意見が活発に出て来るようにしたい。
年度報告	全学的には、「共通教育(1年生)アンケート」を実施し、学生による評価を求めた。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	教授方法は多様であり、学部教員は様々な工夫をしている。アクティブ・ラーニング、ICTの活用、小テスト、中間試験などは学部内で幅広く実施されている。
年度目標	今後は反転授業の試みもあってもよいと考えている。
年度報告	一部の教員が講義および博物館実習においてアクティブラーニングの活用、ICTを利用した教育を実施した。
達成度	A
改善課題	特になし。
根拠資料	①専任教員におけるH29年度実績 ②教務の手引き2018 ③シラバス2018
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ ディプロマ・ポリシーと卒業判定との整合性を考えていますか。
現状説明	各学科のディプロマ・ポリシーを念頭に置いて、卒業判定の基準やルーブリックを作成しているので、整合性は十分に考えられている。
年度目標	現状を維持・継続する。
年度報告	ルーブリック表を用いてディプロマ・ポリシーに基づく卒業判定を実施した。
達成度	S
改善課題	特になし。

根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③大学ホームページ ④卒業研究に対するルーブリック表
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	学生による授業評価の結果を各学科の学科長が学科教員に連絡し、評価に対して教員が学生に行ったフィードバックの内容を学科長に報告し、そのまとめが学部長に連絡されるというシステムにより、検証している。これとは別に、学修成果の点検・評価方法の確立とその運用に関して、今年度を実施した生命工学部外部評価により検証された。
年度目標	2018年度は学部自己評価委員会や学部FDで検証する。
年度報告	学修成果の点検・評価方法の確立とその運用に関して、今年度を実施した生命工学部外部評価により検証した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①生命工学部外部評価報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	学生による授業評価の結果を各学科の学科長が学科教員に連絡し、評価に対して教員が学生に様々な方法でフィードバックを行っている。
年度目標	現状を維持・継続する。
年度報告	授業評価アンケートに対するフィードバックを行い、指導方法の改善に努めた。また「卒業生アンケート」、「共通教育(1年生)アンケート」が全学的に実施されている。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③授業評価アンケート報告書
次年度の課題と改善の方策	

基準4. 教員・職員

領域：教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

中長期計画	<p>学部の理念・目的に則り、各学科が教育内容の中長期的計画に基づき、教員の補充や教員構成を是正するなど、教員組織の編成に関しては計画的に検討を続けている。ただし本学部では、教員の高齢化が目立つ。また特定の年代の教員が固まっており、平均年齢が毎年上がっている。教育内容の改善とともに、教員の平均年齢を下げる必要がある。【3学科の教員・教員組織に関する具体的な中長期計画の概要は以下の通りである。】(1)生物工学科は、「瀬戸内の里山からはじまる食と環境のバイオサイエンス」のテーマのもとに、生物多様性やその応用さらに「福大ワインプロジェクト」を強力に展開していくプロジェクトを通して、必要とされる人的拡充を行い、確固とした組織作りを目指す。(2)生命栄養科学科は、学科教員の年齢構成が50歳以上が多く、若手教員が少なく、中堅の40歳台の学科教員は1名と少ない。そのため、今後、円滑な学科運営ができるように中・長期計画を行う。(3)海洋生物科学科は、4つの分野、9研究室で構成されており、学科の教育内容(現行カリキュラム)とリンクした形となっており、今後も今の体制を維持するための教員組織を維持する。</p>
-------	--

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	<p>学長ガバナンスにより、学長の権限と責任が明確になったことを学部教授会で説明している。学部長は全学組織の中に合って学部に関する事項を掌理し、学科長は学部長のもとで学科運営について責任を負っている。人事や予算等の学科運営の主要な内容については、必ず学部長と協議して決定している。学長が中心となって議論の後、上がってくる学長室会議での原案が評議会で審議・承認され、その内容を学部教授会で学部長が報告するという形を取っている。このため、それぞれの段階で、学長および学部長は、教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していると考えられる。</p>
年度目標	現状を維持・継続する。
年度報告	学部長は全学組織の中に合って学部に関する事項を掌理し、学科長は学部長のもとで学科運営について責任を負った。人事や予算等の学科運営の主要な内容については、必ず学部長と協議した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	<p>福山大学教員選考基準、福山大学教員選考基準内規、福山大学生命工学部教員選考基準内規、に教授、准教授、講師、および助教について、必要な人格識見、教育能力、および研究能力等を明確にしている。すなわち、教授には教育能力、研究能力、学科運営能力、博士の学位の取得または豊富な実務経験などを期待している。准教授には教育能力、研究能力を主に期待している。このような考えのもと、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施している。</p>
年度目標	現状を維持・継続する。

年度報告	生命工学部教授会で審議・決定された事項は、学科の専任教員と助手をメンバーとする学科会議と学科の専任教授をメンバーとする学科教授会において調整した上で実施された。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネジメントの機能性を高めていますか。
現状説明	各部署の職員の役割は明確に把握できているので、教学マネジメントの機能性は高い。
年度目標	現状を維持・継続する。
年度報告	事務職員と連携して、適正な学科運営を行った。
達成度	A
改善課題	事務の人員不足により機敏な対応が期待しにくい。
根拠資料	①事務への提出書類(原議書、報告書等)
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	本学部3学科の授業科目と担当教員は適合していると判断するが、それを検証する仕組みは十分機能しているとは言い難い。学部全体の教員年齢構成は高齢化している。女性教員男性教員の比率は、学部全体では概ね適切であると判断するが、学科間での隔たりが大きい。生物工学科に関しては年齢構成、性別構成、職階の、また海洋生物科学科に関しては性別構成の是正に取り組む必要がある。また、今年度を受審した生命工学部外部評価において、教員の高齢化と女性教員(専任教員)の偏りに対して改善を要するという指摘を受けた。
年度目標	すぐには難しいが、教員構成を徐々に是正していきたい。
年度報告	文部科学省ならびに厚生労働省が定めた基準を満たす教員組織を維持した。具体的には、海洋生物科学科教員の退職に伴うフィールド生態環境分野と資源利用育成分野の境界領域を専門分野とする教員を採用した。また、魚病学を専門とする教授が海洋生物科学科の構成員ではなくなったため、急遽、魚病学を専門とする教員1名を採用した。
達成度	A
改善課題	教員の高齢化、女性教員の学科間での片寄りがある。
根拠資料	①平成30年度生命工学部人事教授会資料 ②平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	教員数と教授数は、3学科ともいずれも大学設置基準に定められた人数を満たしている。また、30年度に向けて、栄養教育担当と医学分野担当の教員をそれぞれ採用した。これにより、大学設置基準ならびに管理栄養士学校指定規則の規定を満たす教員構成とした。計画していたフィールド生態環境分野と資源利用育成分野の境界領域を専門分野とする教員1名の採用については、採用人事を年度内に行うことができなかった。
年度目標	自己点検評価による検証を継続する。
年度報告	文部科学省ならびに厚生労働省が定めた基準を満たす教員組織を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development;教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	2017年度は「卒業研究のルーブリック評価」に関する生命工学部FD研修会を1回実施した。
年度目標	学部、学科独自のFDを計画実施する。学部自己評価委員会が機能するよう努力する。授業の能力・学生指導力を開発する研修会を平成30年度も実施する。多様なテーマについての研修の開催を目指す。
年度報告	学科FDは活発に行われている。学部FDは危機管理に関する学生への指導内容について行った。
達成度	A
改善課題	次年度も、多様な形態の研修会の開催を目指す。
根拠資料	①臨地実習・校外実習における学生の安全確保に関するマニュアル ②因島キャンパス増改築案 など
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development;教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取組みを実施していますか。
現状説明	大学全体として、SDは盛んに行われているが、学部・学科によるSDは実施していない。
年度目標	今後、学部主催のSDを実施するかどうかの議論を行いたい。
年度報告	全学的に実施されたSD研修会に参加した。また、新たに作成された福山大学危機管理マニュアルに従って、学部SDとして学生の安全確保に関するSDを実施した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①SD研修会出席者名簿

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊟ 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	生命栄養科学科の専門科目として、健康情報演習、栄養教育実習、公衆栄養学実習、給食栄養管理実習、総合演習IIなどの演習・実習でICTを活用した教育を行っている。学部ではその他数名の教員が導入を図っているが、まだ十分とは言えない。また、多くの授業で、Zelkova、Cerezoを活用した。
年度目標	積極的導入を促す。ICTの活用を中心に、本学部の専門教育科目へのICT活用教育の導入を進めていく。
年度報告	ICTを活用した「学生ポータルシステム」および「学習支援システム」を利用している。
達成度	A
改善課題	Karinへのデータ移行が進んでいない。
根拠資料	①Office365の情報共有システム
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	教員の研究費・研究室の確保はほぼできている。教員の業務時間の増加に反比例して研究時間は少なくなっている。研究専念時間については、その他の大学業務時間が長く、十分に確保することは難しい状況である。教員数が漸減する一方で、仕事量が増えて研究に専念する時間を十分に確保することは難しい。今年度に受審した生命工学部外部評価において、外部委員から生命工学部教員の研究時間が減少していることについて懸念が示され、教員の教育活動、校務、研究活動に費やす時間配分の検討や、年齢構成と教員数の検討・改善の必要性が指摘された。
年度目標	教員の研究費ならびに研究に専念する時間の確保を目指す。
年度報告	研究を進めるための環境を維持したが、老朽化機器の廃棄は進んでいない。教員の研究費ならびに研究に専念する時間の確保は不十分である。
達成度	B
改善課題	海洋生物科学科は1学年の学生数が100名を超えるという状況下で専任教員やクラス担任の教育上の負担が大きいため、研究時間の確保が難しい。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	海洋生物科学科は1学年の学生数が100名を超えるという状況下で専任教員数を増やし、クラス担任制を1学年2クラスから3クラスにする。老朽化機器の廃棄・入れ替えを進める。

点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	大学で定めた規定等に従って研究を行っている。倫理的な問題が発生する可能性がある研究については、「学術研究倫理審査委員会」の審査を経て事前に認められたものについてのみ行うことができる。研究の不正行為、研究費の不正使用については「研究関連ガイドブック」を事前に理解し、不正防止に努めている。学部構成員全員が研究倫理のガイダンスを受講し、試験に合格した。学内で行われる教育研究活動で、倫理に関わるものはすべて学術研究倫理審査委員会ですべて事前に審査され、さらに進捗状況報告している。福山大学「研究関連ガイドブック」が作成され、教職員に配布された。2016年度に続き2017年度には、学部教員全員が研究倫理に関わるeラーニングを受講することによって、コンプライアンス意識について検証を受けるとともに、学部の研究倫理教育を受けた。また、学内に不正防止計画推進室が設置され、学内における教員に関する不適切なことがあった事項について調査をし、適切な処置が行われるように運営されている。
年度目標	現状を維持・継続する。
年度報告	研究テーマの「学術研究倫理審査委員会」における審査、「研究関連ガイドブック」の周知を行い、研究倫理に関わるトラブル等は生じなかった。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①学術研究倫理審査委員会議事録、平成30年度シラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	研究費の執行は教員間でバラつきがあるが、教員が研究室に所属する4年次生や院生にそれぞれ研究テーマを与え、その研究を遂行するのに十分な研究費が執行されている。各学科内で会計担当教員を配置しており、使用状況のチェックは行っているが、適切性の検証は行われていない。専任教員の研究費はすべて使用されており、執行状況は充分である。各学科で教材費を各教員に配分し、教育研究活動のために適切に使用した。専任教員の研究費は事務室が管理して、すべて適切に使用された。
年度目標	専任教員の研究費を適正に執行する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	外部資金等の獲得率が伸び悩んでいる。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか
現状説明	全学的な取り組みとして、公的研究費を適正に運営・管理するためのガイドライン「研究関連ガイドブック」が全教員に配付された。また、FD研修会等で教職員に周知徹底されている。2015年度から全学の教職員が「コンプライアンス教育および研究倫理教育研修会」に出席し、講演の聴講後に「理解度テスト」の答案と「誓約書」を提出している。2016年度からは、学部教員全員が研究倫理に関わるeラーニングを受講することによって、コンプライアンス意識について検証を受け、学部の研究倫理教育を受けた。また、学内に不正防止計画推進室が設置され、学内における教員に関する不適切なことがあった事項について調査をし、適切な処置が行われるように運営されている。
年度目標	現状を維持・継続する。

年度報告	公的研究費を適正に運営・管理するためのガイドラインに沿って活動し、問題等は生じなかった。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン ②公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部

基準6. 内部質保証

領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2018年度

生命工学部

中長期計画	生命工学部自己点検評価委員会の活動を活発化し、PDCAサイクルを適切に機能させ、教育研究活動の質を向上を目指す。生命工学部の自己点検評価委員会を中心に、2017年度に受審の生命工学部外部評価が終了し、報告書を作成した。また2017年度に卒業研究の点数化に必要なループリックなどの学部FD研修会を開催した。2018年度以降は、ICT教育の強化やアクティブラーニングの導入に役立つ学部FDを活発化させる。
-------	--

2018年度

生命工学部

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	大学や学部には、自己点検評価に関する規則などが設けられ、適切に組織として運用されている。年度初めに目標を立て、その達成度を点検・評価するための学部自己点検報告書を福山大学自己点検評価実施小委員会に提出するシステムが稼働するようになった。学科は、独立した自己点検評価組織を持たないが、学部長が中心となって行う学部自己点検評価の一部として学科長を中心に組織的に活動しており、責任体制も明確に確立している。
年度目標	現状を維持・継続する。
年度報告	学科自己点検評価、教員個人の自己点検評価および生命栄養科学科では管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検を実施した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度自己点検報告書 ②平成29年度福山大学生命工学部外部評価報告書 ③平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検 ④生命工学部自己点検評価委員会細則
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	2017年度は、日本高等教育評価機構による認証評価を受け、結果をホームページで公表した。生命工学部自己点検評価委員会において生命工学部の諸活動について点検を行い、外部評価のための自己点検評価書を作成した。自己点検評価書に基づいて、7名の外部委員から評価を受けた。その結果をまとめた報告書は、製本し配布する予定である。また、来年度のなるべく早い段階に大学HP上で公開する予定である。
年度目標	外部評価報告書の製本の配布と大学HP上での公開を行う。それにより、学部の教職員が共有できるようにする。
年度報告	外部評価報告書の製本の配布と大学HP上での公開を行った。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成29年度福山大学生命工学部外部評価報告書 ②大学HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	大学HPの研究者一覧に教育研究活動に関する資料がデータベース化され、一般公開されている。また大学HPに教員の幅広い活動などが公開されている。その結果を査定し、今後の改善に活かしている。また、2017年度、大学にIR室が新設されたため、学科の教育活動に関する資料のデータベース化については今後IR室の方針に従っていくことになる判断し、学部内での議論は行わなかった。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	IR室による「Karin」を用いて学科の教育活動に関する資料のデータベース化を行う予定であったが、「Karin」の整備中のため、まだ実施していない。学部教員のデータを共有して、十分な調査・データの収集と分析はまだ行っていない。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	「Karin」を用いた学部の教育活動に関する資料のデータベース化を行う。

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	全学で実施されている自己点検評価活動において、学部及び学科の点検評価書の点検・評価・承認を通して、学部および学科内で適切に活動している。全学自己点検評価委員会、学部自己点検評価委員会は、それぞれに適切に活動している。2017年度は生命工学部自己点検評価委員会において生命工学部の諸活動について点検を行い、外部評価のための自己点検評価書を作成した。自己点検評価書にもとづいて、7名の外部委員から評価を受けた。

年度目標	現状を維持する。
年度報告	全学の自己点検評価組織の一部として適切に活動した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①本報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	<p>本学では「福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン」、「学術研究における倫理審査について」、「男女共同参画宣言」、「研究費の取り扱いについて」、「個人情報管理基本方針」が制定されており、教員に周知され、意識の徹底が図られている。また、大学で起こりやすい種々のハラスメント、研究の不正、研究経費の不正等に関する全学レベルのFD研修会に参加することで、コンプライアンス意識を徹底している。また、倫理規定を含む研究活動は、学術倫理審査委員会の許可を得たうえで実施している。学部教員全員が研究倫理に関わるeラーニングを受講することによって、コンプライアンス意識について検証を受けた。学部教員全員が生命工学部で開催した研究倫理教育を受講した。新入生に対しては研究倫理教育を実施した。また4年次生に対しては、研究室単位で研究倫理教育を実施した。これらの成果の具体的な検証は行っていないが、不正等の発生はない。</p>
年度目標	コンプライアンスに関する学部研修会を開催する。
年度報告	コンプライアンスに関する学部研修会を開催した。その他の現状も維持した。平成30年度は不正等の発生はなかった。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①FD研修会参加者名簿 ②学術倫理審査委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域：本学独自基準と点検・評価

2018年度

生命工学部

中長期計画	<p>2017年度に本学独自の研究プロジェクトとして、「瀬戸内の里山・里海学～生態系、資源利用と経済循環、そして文化～」が立上げられた。その中で、里山・里海の「自然の把握」「ひと・まち・くらしの創造」「資源利用と経済循環」に関して、本学部は密接に関連しており、研究実績を積み上げていきたい。具体的には、環境DNAを用いた里山の動物相の把握、バイオリギングを用いた動物の行動分析、根圏微生物群のゲノム分析、環境DNAを用いた藻場、流れ藻、干潟の魚類相の把握、水圏微生物のゲノム分析、水族館・小中学校等での環境教育、里山里海ネットワーク授業、福山大学ワインプロジェクト、福山バラの酵母プロジェクト、瀬戸内の果実を用いた新しい果実酒・ジャムの開発、水産資源次世代養殖システム、高付加価値水産資源の開発、海洋由来有用物質・微生物の探索、など多岐にわたるプロジェクトを、学部教員として発展させたい。</p>
-------	--

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	学部教授会で教員に周知させた。学生に対してはまだ十分とは言えない。
年度目標	学生に対しては、今後、教養ゼミ、大学祭などの機会を見つけて周知していく。
年度報告	研究ブランディングの研究テーマを生物工学科および海洋生物科学科4年生の卒業研究の一環として取り組み、卒業研究の成果を発表した。「里海・里山プロジェクト」の展示開発を研究テーマで4年生が発表した。 このような卒業研究の取り組みから教員および1年生～4年生の海洋生物科学科の学生に福山大学ブランディング戦略の概略を周知することができた。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度福山大学生命工学部生物工学科卒業研究発表会要旨集 ②平成30年度福山大学生命工学部海洋生物科学科卒業研究発表会要旨集
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	生物工学科の福山大学ワインプロジェクトによる「さんぞうの赤ワイン」、福山バラの酵母プロジェクトによる「福山バラ酵母パン」、海洋生物科学科の新規養殖システムによる「シロギスの養殖」などは、広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれる取り組みである。
年度目標	現状説明の取り組みに加えて、中長期計画に示したその他の取り組みの推進を行う。
年度報告	テッポウギスプロジェクトの研究・技術開発を進め、「しまなみ寿司」で販売・評価し、福山市の仲卸業者クラハシ(株)と連携して沖縄での量産体制を整えた。また、内海生物資源研究所の水族館の展示水槽においてシロギスの展示を行った。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度福山大学内海生物資源研究所運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	環境DNAを用いた里山の動物相の把握、バイオロギングを用いた動物の行動分析、根圏微生物群のゲノム分析、環境DNAを用いた藻場、流れ藻、干潟の魚類相の把握、水圏微生物のゲノム分析、水族館・小中学校等での環境教育、里山里海ネットワーク授業、福山大学ワインプロジェクト、福山バラの酵母プロジェクト、瀬戸内の果実を用いた新しい果実酒・ジャムの開発、水産資源次世代養殖システム、高付加価値水産資源の開発、海洋由来有用物質・微生物の探索などの取り組みを行っている。
年度目標	現状を継続、発展させる。

年度報告	卒業研究の一環として取り組み、研究成果を卒業研究発表会および学会で発表した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度日本水産学会秋季大会要旨集 ②平成30年度福山大学生命工学部海洋生物科学科卒業研究発表会要旨集 ③私立大学ブランディング事業2018年度の進捗状況(大学HP)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目指しています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	環境DNAを用いた里山の動物相の把握、バイオロギングを用いた動物の行動分析、根圏微生物群のゲノム分析、環境DNAを用いた藻場、流れ藻、干潟の魚類相の把握、水圏微生物のゲノム分析、水族館・小中学校等での環境教育、里山里海ネットワーク授業、福山大学ワインプロジェクト、福山バラの酵母プロジェクト、瀬戸内の果実を用いた新しい果実酒・ジャムの開発、水産資源次世代養殖システム、高付加価値水産資源の開発、海洋由来有用物質・微生物の探索などの取組を行い、その成果は、関連記事の大学HPのアクセス数、新聞記事の評価、受験者数の推移、入学生・オープンキャンパス参加者・大学祭参加者へのアンケートなどで検証している。
年度目標	福山大学ブランディング戦略への取組みの強化と、成果の検証を継続する。
年度報告	シロギスの養殖技術開発の研究テーマを4年生の卒業研究の一環として取り組み、卒業研究発表を行った。また、平成30年度日本水産学会秋季大会で発表した。尾道特別支援校しまなみ分校と連携した水族館学習、図書館、幼稚園、水族館と連携した学習支援活動を通じて地域支援をそれぞれ行い、これらの成果は卒業研究発表を行った。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度日本水産学会秋季大会要旨集 ②平成30年度福山大学生命工学部海洋生物科学科卒業研究発表会要旨集 ③私立大学ブランディング事業2018年度の進捗状況
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	地域の中核となる幅広い職業人の育成を目指して、「福山大学ワインプロジェクト」や笠岡市教育委員会との包括協定に基づく「カブトガニの生態研究」等を実施し、成果を上げている。
年度目標	福山大学ブランディング戦略への取組みの強化と、成果の検証を継続する。
年度報告	テッポウギスプロジェクトの研究・技術開発を進めるとともに「しまなみ寿司」で販売・評価に着手し、研究成果を学会で発表した。平成30年度の卒業生の就職が愛媛県水産試験場に決まっており、「地域の中核となる幅広い職業人として今後の地域貢献に期待ができる。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度日本水産学会秋季大会要旨集 ②平成30年度福山大学生命工学部海洋生物科学科卒業研究発表会要旨集

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	環境DNAを用いた里山の動物相の把握、バイオロギングを用いた動物の行動分析、根圏微生物群のゲノム分析、環境DNAを用いた藻場、流れ藻、干潟の魚類相の把握、水圏微生物のゲノム分析、水族館・小中学校等での環境教育、里山里海ネットワーク授業、福山大学ワインプロジェクト、福山バラの酵母プロジェクト、瀬戸内の果実を用いた新しい果実酒・ジャムの開発、水産資源次世代養殖システム、高付加価値水産資源の開発、海洋由来有用物質・微生物の探索などの取組を行っており、いずれも備後地域での研究であることから、備後地方との密な連携のもとに進める教育研究である。
年度目標	福山大学ブランディング戦略への取組みの強化と、成果の検証を継続する。
年度報告	
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①私立大学ブランディング事業2018年度の進捗状況
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	環境DNAを用いた里山の動物相の把握、バイオロギングを用いた動物の行動分析、根圏微生物群のゲノム分析、環境DNAを用いた藻場、流れ藻、干潟の魚類相の把握、水圏微生物のゲノム分析、水族館・小中学校等での環境教育、里山里海ネットワーク授業、福山大学ワインプロジェクト、福山バラの酵母プロジェクト、瀬戸内の果実を用いた新しい果実酒・ジャムの開発、水産資源次世代養殖システム、高付加価値水産資源の開発、海洋由来有用物質・微生物の探索などの取組を行っており、いずれも実践的でアクティブラーニングを活用した教育研究であり、学問にのみ偏重しない全人教育と捉えることができる。
年度目標	福山大学ブランディング戦略への取組みの強化と、成果の検証を継続する。
年度報告	シロギスの養殖技術開発の研究テーマを4年生の卒業研究の一環として取り組み、卒業研究発表を行った。またを平成30年度日本水産学会秋季大会で発表した。尾道特別支援校しまなみ分校と連携した水族館学習、図書館、幼稚園、水族館と連携した学習支援活動を通じて地域支援をそれぞれ行い、これらの成果は卒業研究発表を行った。また、地域の医療機関、福祉施設、小学校、行政等での実習、ならびに学外の諸組織と連携した活動を行った。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度日本水産学会秋季大会要旨集 平成30年度福山大学生命工学部海洋生物科学科卒業研究発表会要旨集 ②平成30年度臨地実習報告書 ③平成30年度社会連携活動報告書
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。
現状説明	環境DNAを用いた里山の動物相の把握、バイオリギングを用いた動物の行動分析、根圏微生物群のゲノム分析、環境DNAを用いた藻場、流れ藻、干潟の魚類相の把握、水圏微生物のゲノム分析、水族館・小中学校等での環境教育、里山里海ネットワーク授業、福山大学ワインプロジェクト、福山バラの酵母プロジェクト、瀬戸内の果実を用いた新しい果実酒・ジャムの開発、水産資源次世代養殖システム、高付加価値水産資源の開発、海洋由来有用物質・微生物の探索などの取り組みを行っている。
年度目標	福山大学ブランディング戦略への取り組みの強化と、成果の検証を継続する。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度社会連携活動報告書 ②福山大学 食と健康ひろば(ローズスクエア)計画書 ③平成30年度日本水産学会秋季大会要旨集 ④平成30年度日本藻類学会要旨集 ⑤平成30年度福山大学生命工学部海洋生物科学科卒業研究発表会要旨集
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	大学の予算、および私立大学ブランディング事業の予算で実施している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	平成29年度私立大学研究ブランディング事業に採択され、その補助金を獲得した。学科の各教員が、科研費をはじめとする各種の外部資金に積極的に応募している。大学の学科に配分される教育・研究の予算を利用している。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①外部資金等受託申請書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	新聞報道、TV放映、地域情報誌、学報、HP、学会、学術誌など様々な媒体を通して発表している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	テレビ放送、大学HP、学会を通してブランディング研究に関連する研究成果を発表した。また、ブランディング研究に関連する野外調査(ナルトビエイ・オオミズナギドリ・クロダイ)の様子を紹介した。
達成度	S
改善課題	特になし。

根拠資料	①テレビ放送(テレビ新広島「1分のチカラ」映像のチカラを探る！2018年10月12日)、広島ホームテレビ「地球派宣言」2018年11月14日) ②平成30年度日本水産学会秋季大会要旨集 ③大学HP
次年度の課題と改善の方策	